

自分の命

ながか小学校

五年三組

塚家

珠未

私が阪神淡路大震災を知ったのは、三年生

でした。これをしっ、たと1993年にうまれたの

は、お母さんが震災でいなくなってくれたがう

ここにいますかとおもうとあらためて、命の

大切さをじっかんしました。

地震のいりよくは、すごいです。人の命をう

ばったり、大切なものをなくしたり。でも、

震災の話が大切なことも教えてくれました。

今、あかたからといってすぐ物を捨てたり

水のむだづがいや電気のむだづかりをしてい

た自分が話を聞いて、これからは、物を大切に

に使って、いこうと思いました。

私は、人の名前が入っているえん筆は、心

だんだん、たう、いやだけれど、こんな時は、

「し、うがな、いから」と思っ、て使うと思いま

す。地しんだむ田、ている人かいたら自分を

文ぼう具をみよに届けたいひです。私は今、

自分の命と、同じぐらい家族の命の大切さを

感じています。ずっといっしょにいたいと思
てます。けれども、地震は、いつか、来る
か、分かりませぬ、お母さんが仕事に行、て
いる時や、私が遊びに行、てい子時など、バ
ラバラの時かもしれません。今までの私は家
族に対する気持ちを言えませんでした、なの
で、これから、家族を大切に思う気持ちを
伝えるか、か、伝えるたいです。

最後に、た、た、一人で自分の命をなく
したら、お母さん、友達、親せきのみんなを
悲しませることになります、だから私の命は、
みんなの命です。